

# 平成21年度沖縄群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

## 7月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	30	30
平 年 並	50	30	40
低い(少ない)	20	40	30

(平成21年6月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

## 地点別の平年値

	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	28.5	31.3	26.4	176.1	243.6

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

## 7月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 水稲(二期作)

休閑期におけるスクミリンゴガイの防除対策

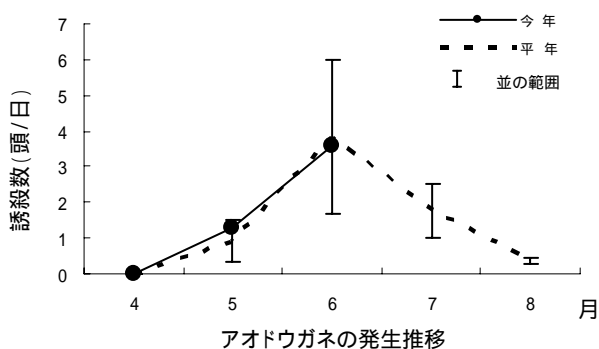
- a 例年、スクミリンゴガイの被害は二期作に多く見られるため、休閑期の防除が重要である。
- b 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
- c 貝の破碎のために耕耘深度は浅くし、土の硬い時期に通常の半分の速度で耕耘すると効果的である。
- d 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- e 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
- f 一期作において発生が著しかった地域では、生産部会等で一斉防除する。

### 2 さとうきび

#### (1) アオドウガネ

発生程度 : 並  
予報の根拠

6月の予察灯による日当たり誘殺成虫数は3.6頭(前年2.6頭、平年3.8頭)と平年並であった。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 6～9月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺灯の管理ならびに誘殺虫の回収処分を徹底する。
- b 7～8月は幼虫の防除適期(1～2齢期)にあたるので、例年被害の多い地域では防除適期を逸しないようにする。

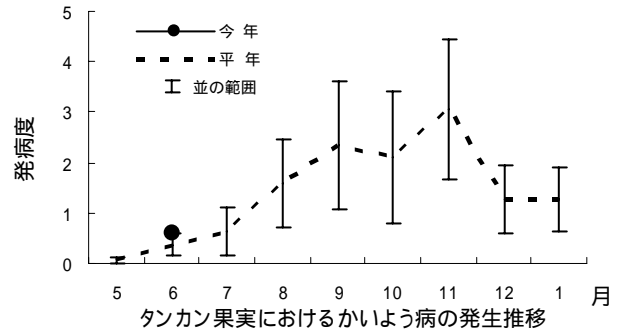
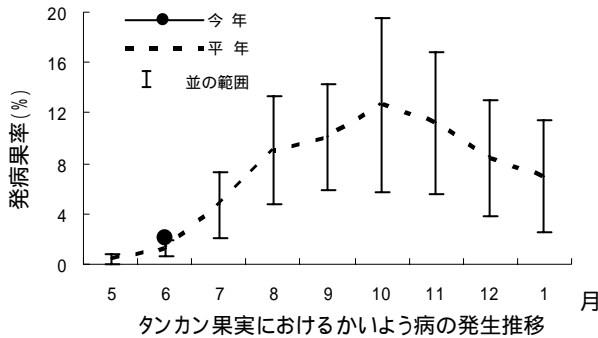
### 3 タンカン

#### (1) かいよう病

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 6月中旬の調査の結果、発病果率は2.0% (前年2.0%、平年1.3%)と平年よりやや高く、発病度は0.6 (前年0.4、平年0.4)と平年並であった。
- b 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より少ない確率が40%の見込みで、本病の発生は抑制されると予想される。



#### < 防除上注意すべき事項 >

- a 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- b 台風通過前に薬剤防除を行うと効果的である。

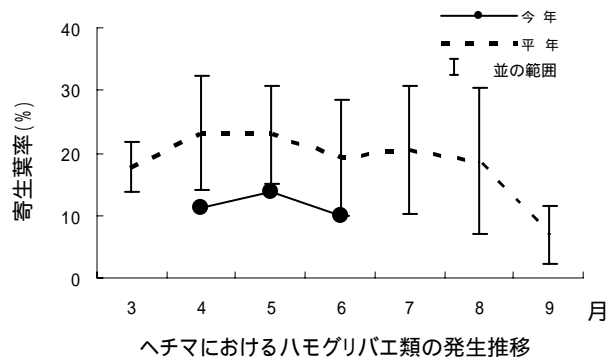
### 4 へちま

#### (1) ハモグリバエ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、寄生葉率は10.0% (前年5.4%、平年19.1%)と平年並であった
- b 気象予報によると向こう1か月の降水量は少ない確率が40%の見込みで本種の発生が助長されやすい。



#### < 防除上注意すべき事項 >

- a ハモグリバエ類は初期防除が重要である。多発してからは防除が困難になるため、早期発見に留意する。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。